

公益社団法人いわき青年会議所 2021年度 理事長総括

2021年度いわきJC基本方針に沿って総括する

【変化に対応できるかけがえのない人財による強固な組織づくり】

社会環境の変化が著しい近年において、人々の価値観の多様化が影響し社会に存在している組織は常にその存在意義を問われていると言っても過言ではありません。JCにおいても例外ではなく、旧来のやり方を続けていては会員数の減少、ひいては組織の弱体化を防ぐことはできないという共通の問題意識をどこのLOMでも持っているはずです。

組織は人の集合体であり、構成するメンバーが同じ方向を向いていなければなりません。新しい会員を増やすにしても私たちはこのような組織であると、会員誰もがその魅力を伝えることができればその組織はなくなることはありません。

本年は昨年に引き続き、年初から新型コロナウイルス感染拡大の影響を強く受け、1年の半分は参集しての事業や例会をすることが叶いませんでした。それでも計画の中止という判断は避けられるようにコロナが再度まん延したような状況でも対応できるような計画立案をしてみました。

本年度は16名の新入会員に入会してもらいましたが、卒業生として輩出する以上の会員を入会させるにはいたらなかったというのは私の力不足でございます。本年は昨年より委員会数を減らし、総務委員会に会員拡大を兼任する職務を分掌しました。この実験的な試みの良し悪しを次年度は引継ぎ、情報を漏らさずに未来のいわきJCを担う人財を集め、青年に成長の機会を与え続けて欲しいと願います。

【次世代に伝えるべき価値創造】

いわきJCでは2年間、令和元年東日本台風やコロナの影響で青少年事業を行うことができませんでした。青少年育成事業というJCが創始の頃から担ってきた花形となる事業を、本年は年当初から実行することに重きをおきコロナ禍の中でも開催できる事業を模索しておりました。

そこで、急速に変化し続ける時代の中でどんなに科学技術が発達しても人が考え判断することはなくなると考えて、青少年に自ら考え主体的に行動できる人財となれるような事業を構築し展開しました。参加人数が予想より少なく、メンバーが事業に携わる機会が少なかったのが残念でしたが、次年度以降も青少年が主体的に行動し地域の未来を担う

人財として育てることができるような運動を継続していくことを願っております。

また、9月のいわき市長選挙に伴う立候補予定者公開討論会を開催しました。コロナの影響でWEB配信での開催となりましたが、結果的には参集型で開催するよりも多くの七千名を超える市民に見ていただくことができました。WEB配信にしたことで従来よりも若者に対しても届きやすい公開討論会であったと考えております。4年後も参集開催になったとしても、WEB配信も必要になってくると予想されるのでしっかり引き継いでいきたいと思っております。

【災害に強いまちづくり】

本年は東日本大震災から10年となる大きな節目の年であります。震災を風化してはならないとの思いのもと、節目の3月11日に祈念点灯式を開催しました。震災を年少期に経験したこれからの地域を担う人財である高校生に震災を振り返り、そして今後のまちはどうなってほしいかを話して頂きました。震災当時幼かった彼らが、震災に向き合いメッセージを発信してくれたことでこれからの未来につなげる事業であったと考えます。いわきJCとして震災からの10年そしてこれから未来に向けての方向転換を図るターニングポイントとなる事業でした。

また、近年の頻発する災害に備えるため震災での体験やその中で培われた知識や経験を伝えていき、震災を風化させないための運動が必要になっています。その為に、今後行政や関係諸団体と平時より問題意識を共有し連携して行くことが必要となります。次年度以降も、一人一人が災害に備える意識を持ち続けられるように、防災意識を醸成する運動の発信を市民に向けて行い、真に災害に強いまちを創っていくことを願っております。

そして、本年からいわき光のさくらまつりは新たなイルミネーション事業「イルミエールいわき」と名称を変更しました。次年度以降、この事業が地域に活力をもたらし、まちに賑わいを創っていくことを願ってやみません。

【地域資源を活用したいわきの活性化】

本年はいわきの数ある地域資源の中で公共施設にフォーカスし、スポーツを通してこの稼働率を上げいわきを活性化しようと考えました。昨年より計画されていたスポーツマッチングサイト「スポまっちいわき」を作成し、延期になった東京オリンピック開催の機運にのせて推進する計画ではありましたが開設直後にコロナの再拡大が重なり、スタートダッシュには水を差された部分があり、登録チームが伸び悩んでおります。

ですが、本年でスポまちいわきのサイトを完成し運用を開始したことは一つの成果であったと考えております。推進計画については、次年度以降はコロナも落ち着いてきたことから本年よりも直接的にスポーツチームにアプローチしていき、より市民に浸透させていただくよう運動を進めていただければと思います。そして、中長期的ビジョンであるロードマップに則り2024年度のゴールを目指して、サイトのアップデート・登録者数の増加を達成し、市民への浸透を踏って頂きたいと考えております。そうすることで、広域ないわきに存在する公共施設という地域資源を活用し、地域振興の芽となることを願っております。

【最後に】

本年私が掲げたスローガン「UNITE！ 心を通わせ結束し、行動しよう」には昨年より続く新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、従来のように気軽に集まる事が難しい中で、どのように会員の熱を下げずに組織を保つことができるのかを考えて決めたスローガンです。

本年を通して、私が理事長として会の為になることができたかという、会の長として至らぬばかりでした。自分自身そこを真摯に反省し、私に伝えられることを後輩にしっかり伝えて参ります。

幸いなことに、本年はJC活動に対して積極的な多くの新入会員に入会していただき、次年度以降彼らにさらなる成長の機会を提供して、丁寧に育てていただきたいと思います。

私は年頭の所信で、常に変化を求められる中においても、真摯に故郷を思い心を通わせ結束し、行動することができれば、活気にあふれるたった一つのいわきを創り上げることができるはずです。と書きました。

私はJCの最大の魅力とはつまるところ、多くの仲間との繋がりができることだと考えています、大変な部分が多くありますがだからこそ、固い絆の仲間を創ることができるはずです。

本年、様々な事業・活動を通して会員の皆さんが新たな絆をつくりました。本年の活動を通して知識や経験を積んだWEBを活用した例会、新たな事業、これらを余すことなく検証と引継ぎを行い、次年度以降それを力と行動の源泉としていただき2022年度の新たな組織体制が18年目となるいわきJCの運動を次世代に繋げていただければ幸いです。次年度以降も会員の皆様が卒業を迎えるその日まで、JCを通して成長の機会を得続けることを願ってやみません。

公益社団法人いわき青年会議所 第17代理事長 中根 雄一郎